



【水辺の楽しみ情報(川の自慢、見どころ 等)】

名勝「おくのほそ道風景地 本合海」

日本三大急流の一つ「最上川」は、ここ新庄市本合海地区でその流れを南北から東西へと90度変える、まさにそのポイントがこの場所です。

「おくのほそ道風景地」とは、芭蕉が歌枕の名所を訪ねて旅した陸奥・北陸路で「おくのほそ道」を通じて後世の人々の風景観に影響を与え、今なお往時の遺風を伝える場所である。

矢向神社

舟でしか渡れない八向山の白い崖の中腹に矢向神社がある。矢向神社の祭神は、日本武尊で、「三大実録」の貞観16年(874)5月11日に、朝廷は出羽国の矢向神に従五位下の位を授けたという記録がある。このことから矢向神社は、市内で最も古い歴史と由緒のある神社といえる。室町時代の作といわれる「義経記」にも義経一行が清川から舟で最上川を遡り、矢向大明神を伏し拝んで本合海に上陸したとあり、新田川河口に「義経・弁慶上陸の地」の記念碑がある。矢向神社が史書などに登場するのは、白い断崖の山容の神秘さに加え、崖下に流れが激突して大きな渦が巻き、舟人にとってこの上ない難所であり、人々は、古くからここに神の存在を感じていたからではないかと思われる。



芭蕉乗船の地

芭蕉と曾良が本合海の船着場より最上川を舟で下った地に、二人の陶像(新庄東山焼き)と句碑「五月雨をあつめて早し最上川」が建っています。また新田川河口近くには、平泉に向かう義経・弁慶一行が舟から上陸したと「義経記」で伝えられる「義経・弁慶上陸の地」があります。

水辺のイベント情報

水辺のお店情報

水辺の遊び場情報

水辺の観光情報

水辺の癒しスポット情報

そのほかの水辺情報

【応募理由】

平成26年度に、名勝として国の指定を受けた場所を、ぜひ多くの人に知って欲しいと思い応募しました。

【写真の情報(撮影場所、時期、時間 等)】

新庄市本合海地区にて撮影

【応募者】

新庄市商工観光課